

# No. 10 引用と参考文献 児童生徒向け資料を

## 1. 引用と自分の文章の区別の指導

他の人が調べたり考えたりして書いたものと自分の文章の区別を、初めから教えていくことが将来につながる。小さいうちは難しいから引用は中学校から指導すればいいのではないかと、といった考え方を聞くことがあるが、後から引用の指導をしても定着が難しい。著作権の認識をしっかりと持たせるためにも、初めての「調べてまとめる学習活動」から、この引用の指導をするべきである。

引用の出典は奥付を見て記入することが基本だが、小学校の低学年に「著者名・書名・出版社名・出版年」などといっても、どこをどう写しているのかわからず混乱するだろう。学習経験や発達段階に応じた指導が必要である。小学校低学年には、はじめは「本の名前(書名)」や「背ラベルの数字(請求記号)」、慣れてきたら「書いた人(著者名)」「出版社名」など、学年が上がるにつれ少しずつ増やしていくこともよいだろう。「情報カード」と情報から得た感想などを書く「感想カード」などを、色を変えて使用すると、視覚的にもわかりやすくなる。

要約したら丸写しではないので書かなくてもいいのではないかという質問を受けることもある。要約しても引用したことには変わりはない。文中で自分の文章と区別できるようにするとともに、出典(引用元)を書くことは当然必要である。

引用の書き方の例

- ・「……………」( \*\* 著『\*\*』 \*\* 出版) とあるが、これは…
- ・「……………」(\* 1) → 欄外に \* 1 \*\* 著『\*\*』 \*\* 出版 \*\*
- ・ \*\* が『\*\*』に「……………」と書いているように…
- ・『\*\*』( \*\* 著 \*\* 出版) に … (要約した文章) … とあるのを見つけた。

## 2. 「引用」と「参考文献」の区別も指導

最後に参考文献を書けば、文中には書かなくてよいと思っている場合も多い。引用と参考文献の意味や書き方も指導が必要である。

- \* 引用 …文章中に引用した他人の文章・図・写真など一つ一つに引用元の情報をつける。
- \* 参考文献…直接引用していなくても参考にしたものすべてを文章の終わりに一覧にする。

## 3. 見本を作ろう！

子どもは具体的に例示されないと、どうやっていいのかわからない。見本を作って、掲示したり配布したりしてはどうだろうか。ただし、発達段階や学習経験に留意して、その学校・学年にあわせたものを作るように心がけたい。

引用の書き方の例



(統計局のHPより)

「……………」

……………」 ( …… 著『\*\*』 …… 出版より)



(著者撮影 2019年 \* 月 \* 日)

(文中の一つ一つにつける)

参考文献の書き方の例

【参考文献】

図書資料

1 ……

2 ……

3 ……

Webサイト

1 ……

2 ……

3 ……

他

1 ……

(最後に一覧にする)

引用の書き方の例



(\* 1)

「……………」

……………」 (\* 2)



(\* 3)

\* 1 統計局のHPより

\* 2 …… 著『\*\*』 …… 出版より

\* 3 著者撮影 2019年 \* 月 \* 日

(脚注や文末にまとめてつける)